

ありがとうファンド(愛称ファンドの宝石箱)
追加型株式投資信託/ファンド・オブ・ファンズ 分配金再投資専用

ありがとう投信株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)
第304号 (社)投資信託協会会員

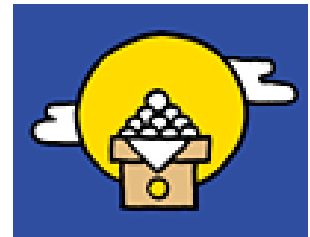
さて、今月のレポートで申し上げるお話には大きく分けて二つの側面があります。

ひとつは暗い感じ、もうひとつは明るい感じですか。どちらから始めましょうか？

こう申し上げますと、どんな嫌な話が始まるのか？と身構える方もいらっしゃるかもしれませんが、な-にたいしたことはありません。敢えて申し上げれば今までお伝えしたことの繰り返しです。

例えば4月のレポートでは「不況とインフレ」と題した項目がありました。不況もインフレも嫌なものです。最近の金融市場の低調ぶりの背景には、世界的な景気後退への不安があるとされています。つまり「不況」に対する不安です。その前までは「インフレ」が心配だ、と盛んに言われていました。これも完全に消えた訳ではありませんから、嫌なことのダブルパンチです。この点に関しては以前にも申し上げたように「インフレを進める力」と「インフレを抑える力」が併存しているのがかつての1970年代との違いです。心配をすることはあっても極端なインフレを恐れる必要はないと思います。

5月のレポートでは、世界の金融市場で行われてきた、レバレッジ(借金に借金を重ねる取引)の拡大が行き詰って破裂してしまった、と申しあげました。いまや世界の金融市場では「もっと儲けたい」どころの騒ぎではありません。資金のやり取りも縮小して、ひたすら損をしないように、自分が潰れなくて済むように、と貝のように身を固くしています。今までの「宴」は終わって二日酔いに苦しんでいます。



6月のレポートで、2月に行われた「インストラライフ」の集まりでの「今年のサプライズ予想」をお知らせしました。自分は「東西冷戦の復活」と言ったのですが、ここに来て新聞の記事にもそんな表現が目立ち始めました。国際的な緊張の高まりは経済活動を阻害する面があります。そして株式市場にも運用にも影響します。決して明るい話ではありません。

7月のレポートではファンドマネージャーである平山さんの「振り子」の概念が金融市場を理解する時の大事な鍵のひとつだと申しあげました。金融だけではなく経済活動にも「振り子」は当てはまります。今の経済では「インフレ」と「不況」という嫌な振り子だけが振れているようです。実に困ったものです。

それでは今申し上げた暗い話を全て明るく変えてみましょうか？

世の中から不況をなくしましょう。

インフレはなくしましょう。

金融取引でどんどん借金を重ねて天にまで届くように利益を上げ続けましょう。

世の中を絶対的に平和にして全ての国際紛争をなくしましょう。(国内紛争も同じ)

市場や経済を大きく揺り動かす振り子は、一方に留めて悪いほうに振れない様にしましょう。

これは恐らく不可能なことだと思います。

それではどう考えればよいのでしょうか？

先月終了したオリンピックがヒントを与えてくれると思います。スポーツの世界の競争はどんどん激しくなっています。まさにグローバル化して、新しい競争相手がどんどん出てきます。ルールも変化しています。これは自分の都合の良いようには動かさせません。新しいルールの中で力を発揮できなければ勝てません。

オリンピックの放送を見ていて、参加している選手たちがどんどん激しくなるグローバルな競争に挑んでゆく姿を見ることができました。これに対処するのは大変な努力です。しかし、最終的には自分を律して挑戦を続けるしか選択肢はありません。ルールが悪いから、とか、仮に条件が違ったら結果も違っていただのに...などと言ってみても意味はありません。挑戦あるのみ、です。



1980年代に東西冷戦が終了してから、今まで西側と東側に分かれていた国々と人々が市場経済システムに共存するようになりました。これはオリンピックの参加国が一挙に増えたのと同じイメージです。参加者は増えて競争は激しくなりましたが、オリンピックの骨組みは変わりません。それを受け入れて生きてゆかなければなりません。

不況もインフレも、完全になくすことは出来ないと思います。借金を重ねて金融取引だけで永遠に高収益を上げ続けることも難しいと思います。そうであれば、社会は変化を続けるということをして信じて変化する社会と市場に前向きに取り組み挑戦を続けることが取るべき道だと考えます。

どんな変化が起きるのでしょうか？

もちろんハッキリとしたことはわかりません。ただ、極めて大きな変化が起きる時には、その渦中にいる人には変化の全体や根本は見えないものだと思っています。



いまテレビドラマで「篤姫」が放映されています。徳川幕府の体制が変わる直前の時代が描かれていますが、江戸城に暮らす役人たち(幕末の武士や大奥にいる女性たちは今の官僚のような存在だったと思います)は、今までの幕藩体制を前提にして考え・悩み・生活していたのでしょう。しかしその数年後にあとから歴史で明らかになるような大変化が起きることはわからなかったと思います。

私たちが今暮らしている現在の日本が幕末前と同じでないとは誰にも言い切れません。

もうひとつ、最後に先日の日経新聞に載っていた中前忠さん(中前国際経済研究所代表)のコメントをご紹介します。中前さんはご自分の提案を「まったく議論されていない」とおっしゃっています。そのポイントは「金利の引き上げ」です。「預金金利が3%になれば家計の純金融資産千百兆円は三十三兆円の利子所得を生む。20%の源泉税を引いても二十六兆円で、三百兆円の消費の9%に相当する。消費が増え、企業の売り上げが増え、賃金が増えてくる、という好循環に持ち込むことが必要なのである。」と書かれています。

どんな変化が起こるのかはわかりませんが、暗い話を吹き飛ばす、前向きの変化を起こす社会に向かって進んで行きたいと思います。

ありがとう投信株式会社 代表取締役 村山 甲三郎

基準日 / 2008年8月29日

基準価額 9,855円
純資産総額 66億91百万円
受益権総口数 67億89百万口
年率複利() -0.36%

期間別騰落率

1ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
-4.76%	-13.62%	-22.29%	-7.94%	-1.45%

「年率複利」とは、設定来から現在までの運用を行った結果として、複利換算した場合何%でまわっていたかを示したものです。過去の実績値であり、将来の成績を保証するものではなく、また個々のお客様ごとの購入時期によっても運用結果は異なります。

8月の世界の市場の動きを見まわしてみますと、7月に申し上げた流れが継続していることが良くわかります。7月には原油高とインフレのセットが景気後退とインフレの沈静化に転換しかけていたと申し上げました。8月はその動きが進行しました。ただ若干ニュアンスが違ってきたのは、景気に対する見方です。アメリカの経済は金融の混乱、住宅市場の低迷、雇用の減少などから経済の見通しの暗さが目立っていたのですが、「そうでもないかも?」という見方が再び出てきました。欧州の景気はやや弱い見通しのままですが、とりわけ見通しが悪くなったのが日本に対する見方です。株式市場の動きにもそのまま現れています。

そのほかにもロシア株式市場は国際的な緊張が高まって大きく下落しましたし、オリンピックの後の「二日酔い」を心配されている中国市場も冴えない動きでした。

そうした中で組入れファンドの動きは次のようなものでした(表1)

トピックスの下落幅の3.75%を世界の他の株式市場と対比すると以下ようになります。(表2)

表1 組入ファンド騰落率(7/31と8/29の比較)

朝日 Nvest グローバルバリュー株オープン	+3.04%
ALAMCO ハリスグローバルバリュー株オープン	+1.13%
トヨタグループ株式ファンドF	+0.95%
NC ヨーロッパファンド	-1.31%
TMA 長期投資ファンド	-2.51%
さわかみファンド	-3.05%
社会貢献ファンド	-3.55%
NC エマージングファンド	-6.60%
TOPIX	-3.75%
ありがとうファンド(8/1と9/1との比較)	-1.77%

表2 他市場との比較

トピックス	-3.75%
英国 FTSE	+4.15%
インド SENSEX	+1.45%
S P 5 0 0	+1.21%
独 DAX	-0.88%
ブラジル BOVESPA	-6.42%
ロシア MICEX	-9.79%
上海総合	-13.63%

8月の株式市場の動きも、冒頭に申し上げたドルや原油の動きに関連しています。すなわち、原油が下落すると共にドルが上昇し、インフレ懸念の後退と世界的な景気後退を理由に金利が低下する動きです。来月移行もこの傾向が続くのかどうか、それはわかりません。ただ、世界のほとんどの株式市場で株価上昇の勢いが失われているので、世界的に市場参加者の「喪失感」はきわめて強くなっています。多くの人が株式市場に期待をしなくなっているのは、長期投資家にとってはむしろチャンスの可能性が高くなっていることを意味します。ただ、まだ見えていない変化が隠れている可能性も十分にあります。引き続き慎重に市場の展開を見ていきます。

このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投信株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は必ず目論見書の内容をご確認の上ご自身の判断でお申込ください。

ここで運用状況のご報告と併せて、弊社の運用体制の変化についてご説明申し上げたいと思います。変化の第一は、8月から新しい運用担当者が加わってくれたことです。名前は岡大（おかひろし）と言います。以前はさわかみ投信さんでアナリスト・ファンドマネージャーとして活躍していました。弊社のファンド運用も今回の増員を機に色々な意味で見直しを始めております。大きく分けてその作業は二つの側面があります。

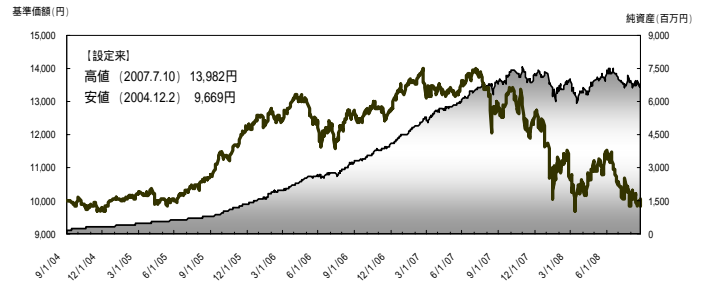
まず、個々の組入れファンドに対する分析を従来以上に進めていきます。敢えて申し上げれば個々の組入れ銘柄の選別なども含めて、それぞれのファンドをあたかも自分たちが運用している気持ちで見て行きたいと考えています。組入れファンドはファンド・オブ・ファンズにとっては大切な仲間です。それぞれのファンドを更によく見つめて、良いスクラムが組めるようにしていきたいと思っています。

もうひとつの側面はファンドとしての機動性や戦略の幅を広げてゆきたいと思っています。これは運用担当者の増員とは直接の関連はありません。但し個々の組入れファンドに対する目配りが今まで以上にできるようになったことでありがたいファンド全体の機動的な運用戦略がやりやすくなると思います。

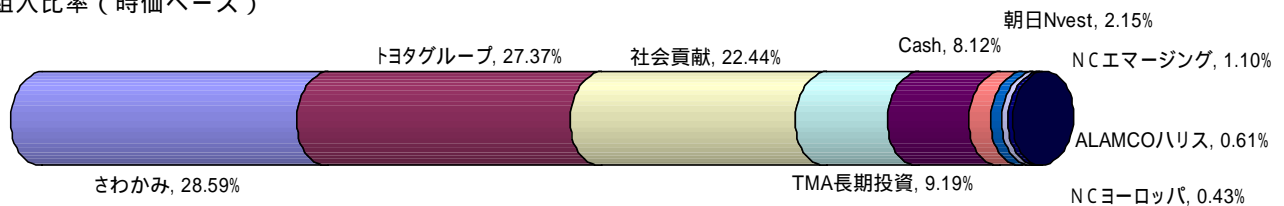
これはファンドの運用の基本が変わることではありません。ありがたいファンドの運用の根幹は全く変わりません。私たちが求めているのは「より良い運用」です。そのための機動的で柔軟な運用ができるようにしよう、ということです。

申し上げたような変化をこれから進めて行きます。そしてその成果をファンドにもたらしていきたいと思っています。特別なことをお約束できる訳ではありませんが、皆様には今までと変わらぬご支援をいただけるように頑張りますのでよろしくお願いを致します。

基準価額・純資産総額の推移



組入比率（時価ベース）



このレポート(P.1-4)の内容に連動した月次運用状況報告会を開催してまいります。第1回目は9月13日(土)。詳しくはセミナー案内をご覧ください。弊社投信企画運用部社員が担当します。

このレポートはありがたいファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがたい投信株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は必ず目論見書の内容をご確認の上ご自身の判断でお申込ください。

グラフはすべて組入れ時を 100 として指数化して表示しています。

さわかみファンド



騰落率	1ヶ月	6ヶ月	1年	組入来
	-3.1%	-4.8%	-22.5%	13.5%

トヨタグループ株式ファンドF

(適格機関投資家専用私募)



騰落率	1ヶ月	6ヶ月	1年	組入来
	1.0%	-18.8%	-26.4%	21.7%

社会貢献ファンド (適格機関投資家専用)



騰落率	1ヶ月	6ヶ月	1年	組入来
	-3.6%	-6.1%	-20.3%	-2.6%

朝日 Nvest グローバル バリューストックオープン



騰落率	1ヶ月	6ヶ月	1年	組入来
	3.0%	-5.9%	-21.0%	9.9%

Nvest のグラフ・騰落率の数字は分配金再投資ベースで再度当社が計算し直しました。従って、ファンド会社から発表される数値と異なっている場合がございます。

株式組入上位10銘柄

	銘柄	業種	組入比率
1	7203 トヨタ自動車	輸送用機器	2.59%
2	7267 ホンダ	輸送用機器	1.71%
3	4063 信越化学工業	化学	1.56%
4	6902 デンソー	輸送用機器	1.49%
5	6753 シャープ	電気機器	1.28%
6	5405 住友金属工業	鉄鋼	1.27%
7	6301 コマツ	機械	1.26%
8	4543 テルモ	精密機器	1.22%
9	6326 クボタ	機械	1.19%
10	6752 松下電器産業	電気機器	1.15%

上記比率は、純資産総額に対する比率です。

マザーファンド株式組入上位10銘柄

	銘柄	業種	保有比率
1	7203 トヨタ自動車	輸送用機器	53.46%
2	6902 デンソー	輸送用機器	14.03%
3	6201 豊田自動織機	輸送用機器	5.74%
4	7259 アイシン精機	輸送用機器	4.75%
5	8015 豊田通商	卸売業	3.72%
6	7262 ダイハツ工業	輸送用機器	3.21%
7	6473 ジェイテクト	機械	2.51%
8	8761 あいおい損害保険	保険業	2.29%
9	3116 トヨタ紡織	輸送用機器	1.86%
10	7282 豊田合成	輸送用機器	1.77%

個別銘柄の保有比率は、現物株式の組み入れ = 100% とした各銘柄の比率です。

マザーファンド株式組入上位10銘柄

	銘柄	業種	構成比率
1	1969 高砂熱学工業	建設業	3.2%
2	6856 堀場製作所	電気機器	3.1%
3	7203 トヨタ自動車	輸送用機器	3.1%
4	5855 アサヒブリック	非鉄金属	2.8%
5	7267 ホンダ	輸送用機器	2.8%
6	6861 キーエンス	電気機器	2.8%
7	3405 クラレ	化学	2.6%
8	7751 キヤノン	電気機器	2.6%
9	4204 積水化学工業	化学	2.5%
10	7752 リコー	電気機器	2.5%

構成比は、現物株式ポートフォリオに占める比率です。

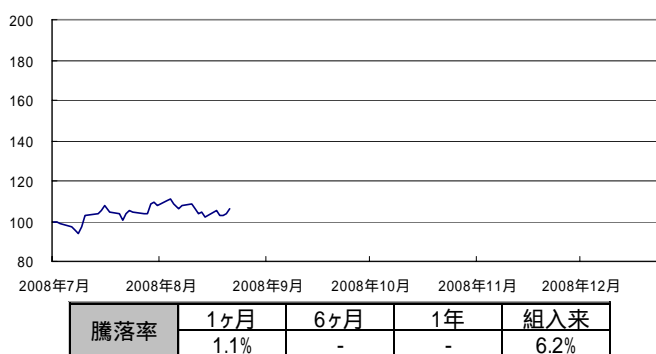
マザーファンド株式組入上位10銘柄

	銘柄	国籍	業種	構成比率
1	MLP AG	ドイツ	各種金融	5.0%
2	NEOPOST SA	フランス	テクノロジー・ハード・機器	4.9%
3	SNAP-ON INC	アメリカ	耐久消費財・アパレル	4.4%
4	ORACLE CORP	アメリカ	ソフトウェア・サービス	4.0%
5	CREDIT SUISSE GROUP-REG	スイス	各種金融	3.7%
6	UNION PACIFIC CORP	アメリカ	運輸	3.6%
7	GLAXOSMITHKLINE PLC	イギリス	医薬品・バイオテクノロジー	3.5%
8	UBS AG-REG	スイス	各種金融	3.5%
9	MEDTRONIC	アメリカ	ヘルスケア機器・サービス	3.3%
10	LABORATORY CRP OF AMER HLDGS	アメリカ	ヘルスケア機器・サービス	3.3%

構成比率は、現物株式ポートフォリオに占める比率です。(組入れ銘柄は2008/8/1基準)

このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投信株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は必ず目論見書の内容をご確認の上ご自身の判断でお申込ください。

T M A 長期投資ファンド < 適格機関投資家限定 >

ニッポンコムジェスト・ヨーロッパ・
ファンド S A (適格機関投資家限定)ニッポンコムジェスト・エマージングマーケ
ッツ・ファンド S A (適格機関投資家限定)ALAMCO ハリス グローバル バリュース
ファンド 2007 (適格機関投資家専用)

マザーファンド株式組入上位10銘柄

銘柄	国	業種	比率
1 NESTLE SA-REGISTERED	スイス	食品・飲料・タバコ	4.8%
2 トヨタ自動車	日本	自動車	3.8%
3 JOHNSON & JOHNSON	アメリカ	医薬品・バイオテック・ライフ	3.8%
4 花王	日本	家庭用品	3.1%
5 キーエンス	日本	産業用エレクトロニクス	2.8%
6 GENERAL ELECTRIC CO	アメリカ	資本財	2.7%
7 GROUPE DANONE	フランス	食品・飲料・タバコ	2.7%
8 資生堂	日本	家庭用品	2.6%
9 ROCHE HOLDING AG-GENUSSS	スイス	医薬品・バイオテック・ライフ	2.5%
10 テルモ	日本	医薬品・ヘルスケア	2.3%

比率は、マザーファンドにおける純資産総額に占める割合です。

マザーファンド株式組入上位10銘柄

銘柄	コムジェスト業種	国	比率
1 ROCHE HOLDING AG	医薬品	スイス	7.7%
2 CAPITA GROUP PLC	ビジネス・サービス	イギリス	7.2%
3 GROUPE DANONE	消費財	フランス	7.1%
4 SYNTHES INC	医薬品	スイス	4.6%
5 HENNES & MAURITZ AB	小売	スウェーデン	4.6%
6 STRAUMANN HOLDING AG	医薬品	スイス	4.6%
7 RECKITT BENCKISER	消費財	イギリス	4.3%
8 ESSLOR INTL	医薬品	フランス	4.2%
9 DASSAULT SYSTEMES SA	テクノロジー・通信	フランス	4.1%
10 SODEXO	ビジネス・サービス	フランス	3.7%

比率は、マザーファンドにおける純資産総額に占める割合です。

マザーファンド株式組入上位10銘柄

銘柄	コムジェスト業種	国	比率
1 MTN GROUP LTD	テクノロジー・通信	南アフリカ	4.1%
2 CATHAY FINANCIAL-REG-GDR	金融サービス	台湾	3.8%
3 TAIWAN SEMICONDUCTOR-ADR	産業	台湾	3.6%
4 SOUZA CRUZ SA	消費財	ブラジル	3.6%
5 AMDOCS LTD	テクノロジー・通信	イスラエル	3.2%
6 ITC LTD*	消費財	インド	3.0%
7 REMGRO LTD	金融サービス	南アフリカ	2.9%
8 SAPPI LIMITED	産業	南アフリカ	2.9%
9 ANADOLU EFES BIRACIL	消費財	トルコ	2.8%
10 CHEUNG KONG HOLDINGS	金融サービス	香港	2.8%

* 当銘柄については、原株式の株価に連動して価格が変動する証券の組入比率です。

マザーファンド株式組入上位10銘柄

銘柄	国籍	業種	構成比率
1 INTEL CORP	アメリカ	半導体・半導体製造装置	6.6%
2 DELL INC	アメリカ	テクノロジー・ハード・機器	4.7%
3 CREDIT SUISSE GROUP AG-REG	スイス	各種金融	4.4%
4 HEWLETT PACKARD CO	アメリカ	テクノロジー・ハード・機器	4.0%
5 SCHERING- PLOUGH CORP	アメリカ	医薬品・バイオテック・ライフ	3.8%
6 ADECCO SA-REG	スイス	商業サービス・用品	3.7%
7 BANK OF NEW YORK MELLON CORP	アメリカ	各種金融	3.6%
8 CIE FINANCIERE RICHEMON-BR A	スイス	耐久消費財・アパレル	3.6%
9 CARNIVAL CORP	アメリカ	消費者サービス	3.6%
10 MERRILL LYNCH & CO	アメリカ	各種金融	3.6%

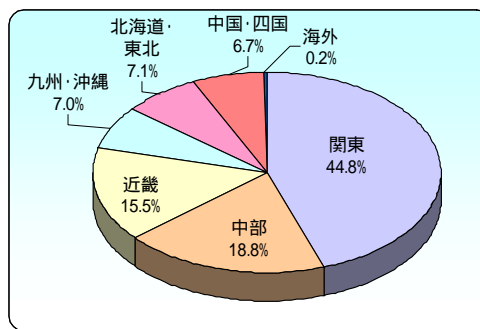
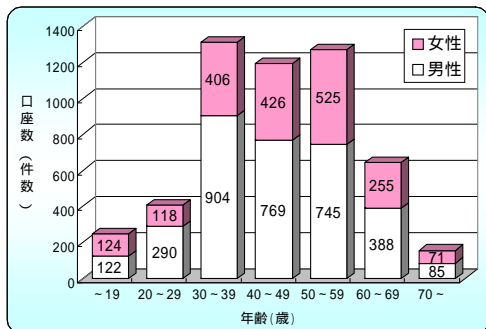
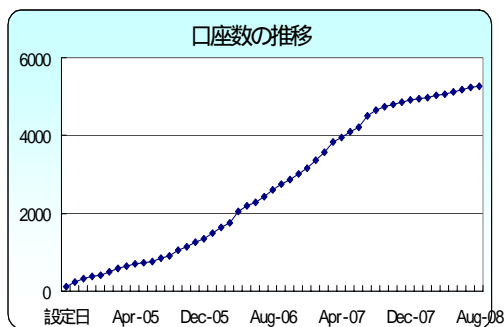
構成比は、現物株式ポートフォリオに占める比率です。

(組入れ銘柄は2008/7/31基準)

このレポートはありがとうございますファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとうございます投信株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は必ず目論見書の内容をご確認の上ご自身の判断でお申込ください。

口座数の推移と年齢・地域分布

顧客数	前月比
5,268名	+21名
個人比率	毎月購入比率
99.2%	52.0%



毎月購入サービスのスケジュール

今後の毎月購入サービスになります。各締切日に間に合わない場合、翌月の取り扱いとなりますので予めご了承下さいませようお願い申し上げます。

	新規申込・口座変更	金額変更・中止	引落日	ファンド購入日 (約定日)
平成20年10月分	受付終了	9月24日(水)	10月6日(月)	10月17日(金)
平成20年11月分	10月3日(金)	10月24日(金)	11月6日(水)	11月18日(火)

特定口座・新証券税制に関するお知らせ

弊社の特定口座導入及び、平成21年から施行される新証券税制につきまして、別紙でご案内しております。大変重要なお知らせでございますので、必ずお目通しいただきますようお願い申し上げます。この件につきまして、ご不明な点は弊社までお尋ねください。

月次レポート7月号アンケート結果

7月号の月次レポート刷新に伴って実施させていただいたアンケート結果についてご報告いたします。

月次レポートの内容・レイアウト変更については、多くの方に読みやすくなったとの評価をいただきました。また、郵送で受け取っている方にA4サイズで折らずにお送りした点も好評でした。この点について補足ですが、今回の変更に伴って送付のコストが上がったのではないかとご心配をいただきましたが、実際はコストの削減になっております。

次に、セミナーに関しては首都圏に限らず実施して欲しいとの声が多数寄せられました。これについては早速月次レポートに連動したセミナーを各地域で開催していく予定であります。

最後に意外と長期投資に役立つ本の紹介が好評でした。この企画は紹介する本を厳選しながら今後も継続いたします。お楽しみに！

このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投信株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は必ず目論見書の内容をご確認の上ご自身の判断でお申込ください。



本物の投資家たちからの夢をかなえる贈り物
(リズ・クラマン著 / 福嶋俊造訳 エクスナレッジ)



投資、特に長期投資においては「自分」を保ち続けることが最も大切で、しかし最も難しいことでもあります。相場が思わしくないときなど、飛び交う様々な情報に、ついつい気持ちも揺らいでしまいそうになりますよね。私はそういったときには初めに判断を下したときの考え方を再確認します。頑なに初心を守るべきときがほとんどですが、真に納得すればガラッと考えを改めるときもあります。いずれにしろ、そうした判断を常に冷静にフラつかずにし続けるためには、しっかりしたブレない軸が必要です。このときの軸となるものが、「自分」です。

この本では、名だたる投資家たちがインタビューに答えて、それぞれある意味好き勝手なことを言っています。ですから、もちろんその全てに共感するわけではないのですが、それでも一通り読んだ後には、全体として一つの強いメッセージが発せられているように感じるのではないのでしょうか。受けとめるメッセージは、おそらく個人々人によって異なるだろうと思います。私は、それこそが「自分」なのだと思っています。 (ありがとう投信 岡大)

『ありがとうファンド』の概要

商品分類	追加型株式投資信託 / ファンド・オブ・ファンズ
信託期間	無期限
決算と収益分配	毎年8月31日(休業日の場合は翌営業日)
お申込単位	1万円以上1円単位
お申込価額	取得申込受付日の翌々営業日の基準価額
ご解約単位	1円以上1円単位
ご解約価額	解約請求受付日の翌々営業日の基準価額
委託会社 (販売会社)	ありがとう投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第304号(社)投資信託協会会員
受託会社	日興シティ信託銀行株式会社 登録金融機関 関東財務局長(登金)第25号(社)日本証券業協会会員

『ありがとうファンド』にかかるリスク

主なリスク 「価格変動リスク」「流動性リスク」「ビジネスリスク」「為替リスク」「カントリーリスク」「ファンド資産の流出によるリスク」

当ファンドは、ファンドオブファンズであり、国内外の投資信託証券などの値動きのある証券に投資します。また、外貨建て投資信託証券に投資する場合には為替の変動もあります。なお、投資信託証券の組入証券の発行会社の倒産や財務状況の悪化等の影響により、価額が下落し、損失を被ることがあります。したがって、ご投資家の皆様の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、**損失を被り、投資元本が割り込むことがあります。**ファンドに投資することに伴うリスクはお客様のご負担となりますしファンドへの投資による損益も全てお客様に帰属します。また**元本及び利息の保証はなく預金保険の対象でもありません。**

『ありがとうファンド』にかかる手数料等

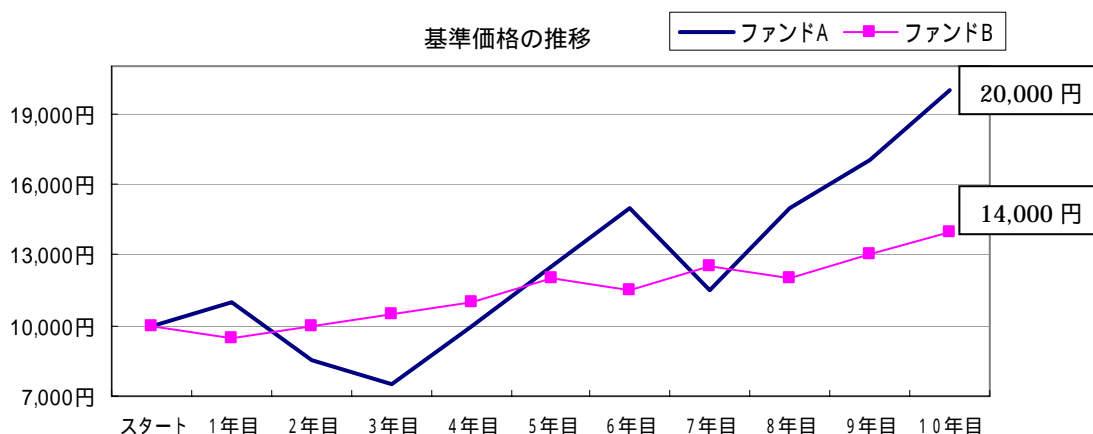
申込手数料	お申込にあたって弊社にお支払いいただく手数料はありません。
換金(解約)手数料換金	手数料はありません。
信託財産留保額	信託財産留保額ははありません。
信託報酬	ファンド純資産総額に年0.945%(税込0.9%)の率を乗じて得た額とします。 [実質的信託報酬 信託財産の純資産総額に対し年1.6%±0.3%(概算)]
その他の費用等	当ファンドは他のファンドを投資対象としており、投資対象ファンドにおける所定の信託報酬を含めてお客様が実質的に負担する信託報酬を算出しております。 当ファンドに組み入れるファンドを売買する際に発生する売買委託手数料およびこれにかかる消費税相当額などの実費が投資信託財産より控除されます。 実費の額は、今後組み入れファンドの追加や変更があった場合、変動してくるものであるため事前に料率、上限額等を表示することができません。

このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投信株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は必ず目論見書の内容をご確認の上ご自身の判断でお申込ください。

《第5回 月次レポート連動セミナー》

数字から考える資産運用
～リターンとリスク～

ハイリスク・ハイリターン、ローリスク・ローリターン、運用の世界ではこんな言葉がよく聞かれます。しかし、リスクが高い低い、リターンが高い低いとはどうやって判別するのでしょうか。まず下のグラフを見てください。例として10年の期間を取り実在しないファンドA、Bを想定し、毎年の基準価格の推移をグラフにしました。

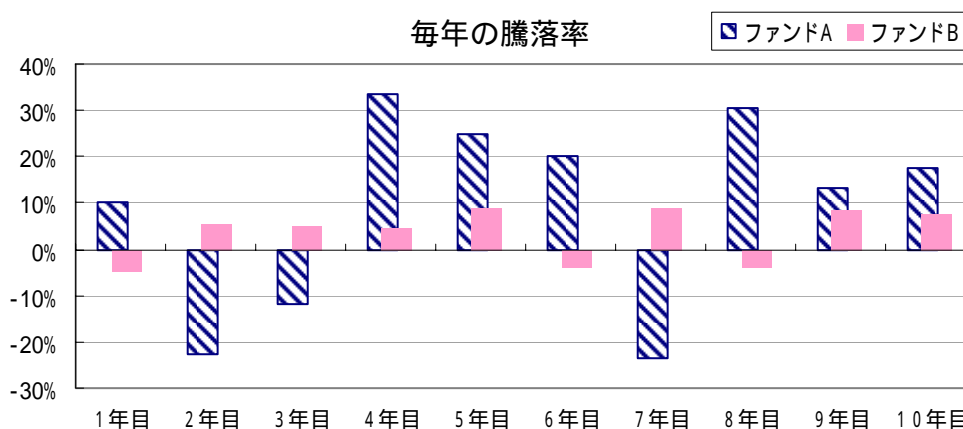


共に10,000円でスタートした基準価格が10年目にはファンドAが20,000円に、ファンドBは14,000円になっています。ここから年平均リターン(複利)を計算すると、ファンドAは7.2%、ファンドBは3.4%になります。言い換えるとファンドAはこの10年間に毎年平均7.2%の複利で基準価格が上がり、同様にファンドBは年3.4%で上がったこととなります。

しかし、グラフを見ても分かる通り基準価格は決して一直線に上昇したわけではありません。特にファンドAは一時大きく当初の基準価格10,000円を割り込み、その後急回復するなど全体にバタバタと基準価格を上下させながら20,000円に到達しました。それに対してファンドBは比較的スムーズに上昇したことが分かります。

このように二つのファンドのリターンだけを比較すれば、明らかにファンドAがファンドBを上回りますが、その上昇過程は随分と異なります。

では次にリスクを見てみましょう。次ページのグラフは先程のファンドAとBの基準価格1年ごとの騰落率(上昇率・下落率)です。



簡単に説明しますと、1年目ファンドAは基準価格が10%上昇しましたが、ファンドBは5%下落しました。2年目はファンドAが22.7%下落したのに対し、Bは5.3%上昇しました。このように10年間見ていきますと、明らかにファンドAの方がBよりも騰落率の上下の振幅が大きいたことが分かります。実はこの振幅の大きさこそ運用の世界で言うところのリスクなのです。

リスクというと一般的には損失の可能性というような使われ方をしますが、運用の世界ではリターンの上下動どちらもリスクといえます。つまりこのケースではファンドAがファンドBよりリスクが高いといえます。上記の関係をまとめると下表のようになります。

	リターン	リスク
ファンドA	高い	高い
ファンドB	低い	低い

言ってみればファンドAはハイリスク・ハイリターン、ファンドBはローリスク・ローリターンとなり、ファンドAの投資家は大きな価格変動(=高いリスク)を受け入れる代わりに高いリターンを得たというわけです。このリスクとリターンの関係は基本的にすべての金融商品に適用されます。すなわち、ローリスク・ハイリターンの商品など一般的に存在しませんし、ハイリスク・ローリターンのものにわざわざ投資する人もいないでしょう。

最後にファンドA、Bのリターン(年複利)とリスク(標準偏差で計算)の関係を数字でも見てみましょう。それが右表です。

	リターン	リスク
ファンドA	7.2%	20.0%
ファンドB	3.4%	5.4%

数字から見てもファンドAがリターン、リスク共に高いことが分かります。そして、この数字から考えるとファンドAは株式型のファンドに近いと言え、ファンドBは債券型のファンドに近いとも言えます。そして、同じ分類(例えば国内株式型)内の比較ではよりリターンが高く、リスクが低いものが優秀なファンドと評価されます。

以上の様に今回は数字を絡めてリスクとリターンの話をしましたが、実際の運用の世界ではもっと複雑な数式や数学的な理論を用いて運用を行うファンドもあります。(ありがとう投信 米山 亮)

このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投信株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は必ず目論見書の内容をご確認の上ご自身の判断でお申ください。